

**授業概要**

本科目では日本文学について、基礎的な知識及び大学で研究するために必要な考え方を講義する。主に近代以前を扱い、その時代ごとの代表的な作品を中心になるべく幅広く取り上げる予定である。

また、日本文学は世界の影響なしに存在していない。世界（とりわけ近隣諸国）との影響関係も講義していく所存である。半年間の授業ではあるができるだけ広範囲に目配りをした講義にしたいと考えている。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション。受講の説明／評価方法／基礎知識の確認
第 2 回	神の世界—『古事記』『日本書紀』の中の日本／天皇の存在感の変化
第 3 回	古代中国との出会い—遣隋使・遣唐使と国風文化
第 4 回	漢字から仮名へ—古今集仮名序における日本最古の文学理念・仮名文字（女文字）の文学
第 5 回	『源氏物語』の中の唐土と朝鮮半島—貿易によってもたらされたもの
第 6 回	『枕草子』『更級日記』『紫式部日記』の中の女性たちの声—思いや考えをつづること
第 7 回	武士たちの教養—中世武士および江戸大名の教養をさぐる
第 8 回	梗概書というダイジェスト文学の世界—『源氏小鏡』『おさな源氏』などのもたらしたもの
第 9 回	本居宣長の「もののあはれ」論について—江戸時代の日本文学の理念（含：小林秀雄論）
第 10 回	日本文学と翻訳—「むらさきのゆかり」の訳し方について／母語話者
第 11 回	怪奇小説の世界—『雨月物語』蛇性の淫・吉備津の釜の中の女性の描写
第 12 回	唐代伝奇小説と日本文学—『任氏伝』と夕顔／異類婚姻譚
第 13 回	森鷗外『舞姫』の解釈の変遷—近代日本が西欧諸国から輸入したもの／女性の地位
第 14 回	近隣諸国の中の太宰治『人間失格』—どうして近隣諸国でその翻訳が売れているのか
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	期末試験

**到達目標**

- ① 日本文学の歴史とその特徴について基礎的な知識を会得し、日本文学さらには人文学の役割や、倫理的な課題を理解し、説明することができる。
- ② 日本文学研究において、問題提起を行い客観的な情報を基に、論理的考察することができる。
- ③ 日本文学への理解を通して日本以外の世界の文学への理解を深めることができる。

**履修上の注意**

受講に際しては熱心に前向きな態度をまず重要視したい（欠席しないこと）。基礎的な知識を習得する際には覚えることが重要だが同時に「考える」ことを身につけてほしい。

**予習・復習**

- ・多くの場合毎回最後に次の授業の参考文献／資料を指示するので、それについて目を通しておくこと。
- ・全ての作品を読む時間は無いので、復習の際に関連作品を閲読すること。

**評価方法**

期末試験（70%）・受講態度（30%）で総合的に評価する。

**テキスト**

こちらで資料を用意するので特定のテキストを用意する必要はない。授業の最後に次の授業の参考文献を指示するので前もって目を通しておくこと。

**授業概要**

古典と近現代の詩・劇・物語・小説の代表的な作品を取り上げ、個々の内容を吟味しつつ日本文学全体を貫くものについて講義する。劇については能・歌舞伎・文楽・現代劇の上演を鑑賞し、また物語・小説については作品の概説・引用の検討に合わせてその映画化を鑑賞することで全体の理解を深める。加えて漱石・遠藤・村上ら著名作品を映画監督がどのようにアレンジし、自身の世界を作り上げているのかを探っていく。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス：日本文学の特質
第 2 回	『万葉集』から『新古今』へ：人間と自然の重ね
第 3 回	俳句から近代詩へ：言葉の意味とイメージの共鳴
第 4 回	『井筒』：物語から劇への転換
第 5 回	『心中天網島』：近松門左衛門作品の概要と歌舞伎・文楽の比較
第 6 回	『卒塔婆小町』：三島由紀夫作品の概要と舞台の鑑賞
第 7 回	『源氏物語』①：「似姿」を求める人々
第 8 回	『源氏物語』②：堀川とんこう監督映画の鑑賞と検討
第 9 回	『それから』①：夏目漱石作品の概要と主題
第 10 回	『それから』②：森田芳光監督映画の鑑賞と検討
第 11 回	『沈黙』①：遠藤周作作品の概要と主題
第 12 回	『沈黙』②：マーティン・スコセッシ監督映画の鑑賞と検討
第 13 回	『ドライブ・マイ・カー』①：村上春樹作品の概要と主題
第 14 回	『ドライブ・マイ・カー』②：濱口竜介監督映画の鑑賞と検討
第 15 回	『ドライブ・マイ・カー』③：濱口竜介監督映画の鑑賞と検討
第 16 回	期末レポートの提出

**到達目標**

- 日本の詩歌・劇・物語の全体的な特質を説明できる。
- 近現代の代表的な作家がどのような作品を生み出しているのかを語るができる。
- 文学と劇・映画の間に表現媒体としてどのような差違と特徴があるのかを説明できる。

**履修上の注意**

- 毎時間欠かさず出席すること。
- 授業ごとの小レポートを毎時間提出すること。
- 私語は慎み、映画鑑賞の妨げになることはしないこと。

**• 予習・復習**

- 予習：各時間で取り上げる作品についてあらかじめ学んでおくこと。
- 鑑賞した映画・ドラマの内容を忘れずに反芻し、レポートを書く準備をしておくこと。

**評価方法**

- 授業内レポート 20%
- 中間レポート 30%
- 期末レポート 50%

**テキスト**

必要な資料は教員がプリントを配布する。

- 教科書名：
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年 (ISBN)：